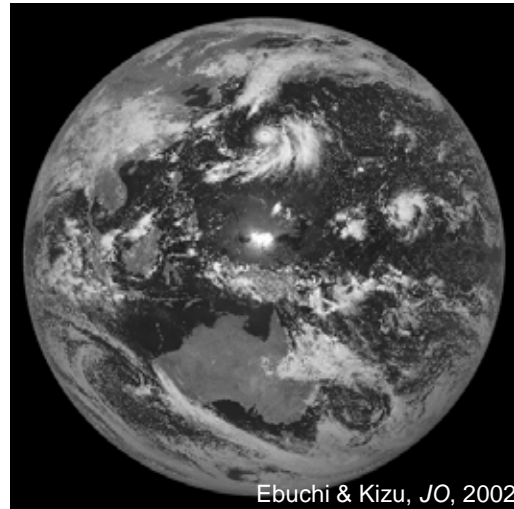
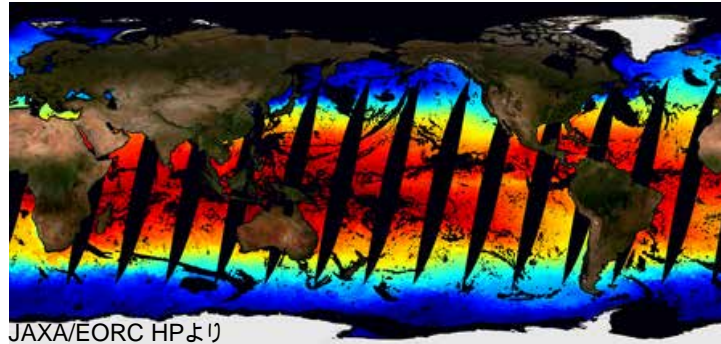


海洋物理・GCOM-W

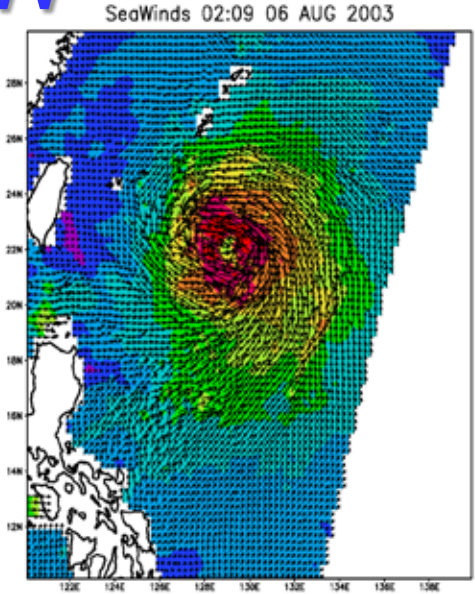
江淵直人(北大・低温研)



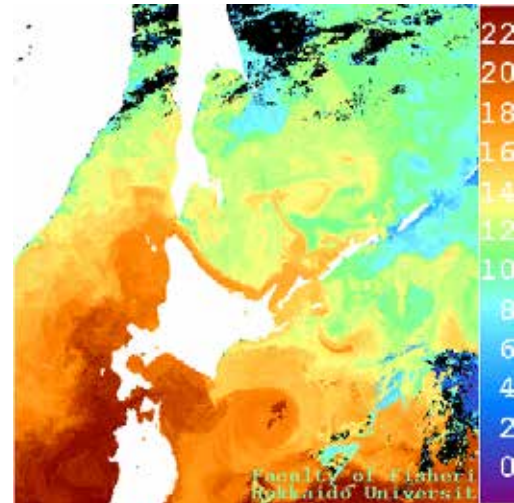
Ebuchi & Kizu, JO, 2002



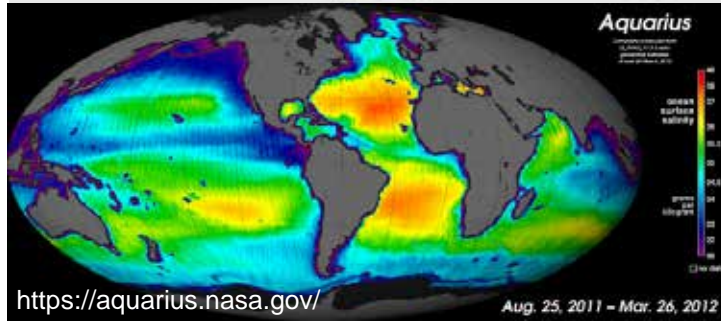
JAXA/EORC HPより



SeaWinds 02:09 06 AUG 2003

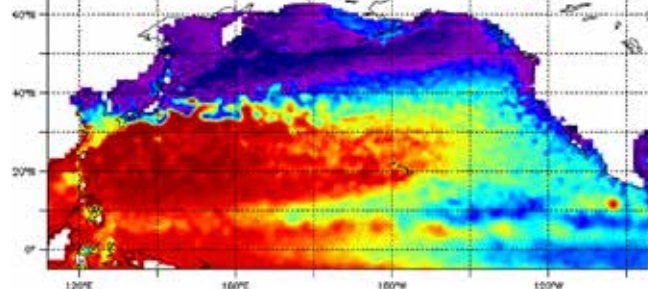


北海道大学大学院水産科学研究院HPより

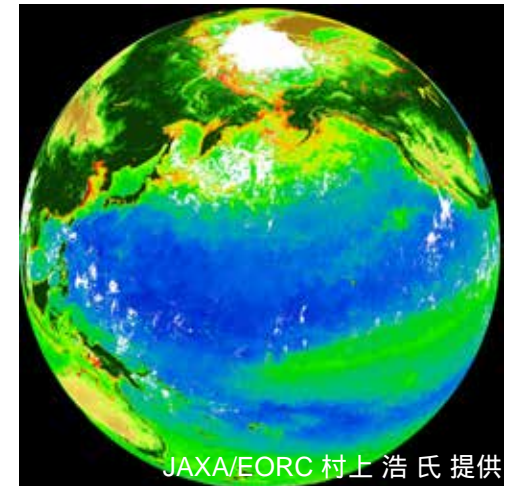


<https://aquarius.nasa.gov/>

Aug. 25, 2011 - Mar. 26, 2012



AVISO の LAS で作成



JAXA/EORC 村上浩氏提供

人工衛星を使った海洋観測： 「しずく」で観測可能 「しきさい」で観測可能

海面水温, 海面塩分, 海上風速・風向, 海面高度・海流, 植物プランクトン, 波浪, 日射量, 水蒸気量, 海水密接度, 海面フラックス(運動量・熱・淡水) ...

衛星観測データを用いた海洋研究の展望

- 衛星観測単独での海洋研究には限界がある
- 複数衛星のコンステレーション, 複数センサの複合利用
- 衛星観測と現場観測, 数値モデルを組み合わせた海洋観測システムの構築
- 長期継続性は極めて重要
 - 季節変動 → ENSOスケール → Decadal変動
- 観測体制の維持には国際協力・役割分担は重要
 - 「しずく」, 「しきさい」は日本の強み

海洋関係の研究動向

2017年12月の国連総会において、「持続可能な開発のための国連海洋科学の10年(2021-2030)」(UN Decade of Ocean Science for sustainable development)が宣言され、その実施に向けてユネスコ政府間海洋学委員会(IOC/UNESCO)が実施計画策定機関として取り組みを始めている。2019年9月には、10年一度全球海洋観測の方向性を議論する会議 OceanObs'19 が開催され、衛星による全球海洋観測の重要性が再確認された。

